

INTERVIEW



社会教育課
宮崎 靖 課長

もてなしの心をお土産に
町民自らが展開する施設

観光交流センターは、来町者の好奇心を満たして情報集約を可能とする施設です。町内の観光スポットへの誘導、特産品開発、店舗紹介の情報を発信する一方で、町民自らが積極的に運営を展開していくことが重要な鍵となります。そこで、観光ボランティアガイド養成、観光スポットや体験メニューなどを増やす取り組みが必要となつてきます。

御船町を訪れるすべての人を「もてなしの心」で迎える拠点整備に取り組むためには、町民や事業者などの全面的な協力が必要です。「御船町に来て良かった」と言っただけの施設を、町民の皆さんとこれから一緒に考えていきたいと思います。



●観光交流センター基本構想・基本計画
観光交流センター建設に向けて、目的、役割、管理運営の基本方針などをまとめた計画。これからの観光交流センター整備と活動の指針となる。全33頁。平成23年3月策定。

町は、国からの交付金を活用した「御船地区都市再生整備計画事業」を進めています。
この事業はシンボルロード線の沿道に交流や観光の拠点を整備して、新たなまちづくりを展開するものです。主に▼ふれあい広場▼新恐竜博物館▼子育てふれあい館▼観光交流センター▼街なかギャラリー▼町道改良一を、平成26年度までに順次整備する計画です。
中でも、新恐竜博物館に訪れた人を町内全域へ導く観光案内所として期待されるのが「観光交流センター」(センター)です。旧御船幼稚園敷地に新恐竜博物館と併設した整備を予定し、敷地面積は3300平方メートル、事業費は約1億5千万円です。
センターは、新恐竜博物館へ訪れた人をもてなし、町内の観光名所、歴史や芸術を紹介して、町民との接点をつくりだす場所。ここでは新恐竜博物館が持つ知的財産を生かして、観光と交流をコーディネートします。
具体的には、来館者の好奇心や探究心を高めるために、化石採集、体験活動などの学習機会を支援。修学旅行生の誘致、観光ツアーの企画や開発を行い、来訪者と町民の交流を生み出していきます。
センターの整備検討は平成22年度から始まり、町民との意見交換会を交え、センターのあり方、機能、活動を話し合いました。その結果を踏まえて、センター整備に向けた基本構想・基本計画を作成しました。
平成23年度も、意見交換会を開いて、施設設計や運営方法の方向性を話し合います。町民の意見を盛り込みながら建築工事を進めて、平成26年春の開館に向けて準備を行っていきます。



声 Voice

観光交流センターが果たす役割と生み出す可能性を観光に携わる2人に話を聞いてみました。



町観光協会 藤木 正幸 会長

観光交流センター整備は100年に一度の大転換期。この流れを恐竜に特化した観光につなげるときです。開館までの2年間で、地域資源の掘りおこし、地域の語り部など人材発掘が必要となります。センターは来た人、これから来る人に御船の良さをアピールする場所です。楽しませる企画、次へつなげる案内企画を用意して、集客と外貨を稼ぐ期待があります。

町おこし組合ドリームパシオン

倉岡 裕之 事務局長

観光交流センターは、恐竜を柱に、観光、歴史、商業などの資源を結びつけて人を呼び込めます。開館までに、観光プランの作成や特産品の開発を進めて、おもてなしの引き出しを増やすことが大切です。御船に来た人に、町民と一緒に交流できる仕組みを用意して、楽しい思い出と御船の香りをお土産に持ち帰ってほしいと思います。



計画 Plan

観光交流センターの建設計画の進行予定を年度ごとに紹介します。

平成22年度	▼	基本構想・基本計画策定
平成23年度	▼	建築設計、意見交換会
平成24年度	▼	建築工事
平成25年度	▼	建築工事
平成26年度	▼	開館

*意見交換会は、町民が事業の計画段階から参加して、グループごとに意見を話し合い、事業に意見を反映させる会議です。

詳しくはホームページ [御船町 観光交流センター](#) 検索



観光交流センター Tourist generator center

町の観光をコーディネートする拠点として、新恐竜博物館と併設して整備します。休憩や恐竜グッズ販売、御船の歴史や文化、物産の紹介など、多機能的な施設として期待されます。



■期間	平成22-25年度	■場所	旧御船幼稚園敷地
■内容	旧御船幼稚園の改装・増築	■費用	1億4830万円



機能 Function

- ①新恐竜博物館来館者を町内全域へ導く観光案内
- ②恐竜が秘める知的財産を広報
- ③観光コーディネーターや仕掛け人として観光や交流を企画



観光交流センターの整備が検討されている旧御船幼稚園敷地



平成20年3月、34年間の歴史に幕を下ろした御船幼稚園。とんがり屋根の園舎がシンボルマークで多くの町民に愛されていた。そんな思い出を引き継いで子育てふれあい館や観光交流センターとして、平成26年春によみがえる。

問 社会教育課社会教育係 282-0888

もてなしの心で迎える拠点整備

都市再生整備計画事業「観光交流センター」編